

よしだ 吉田地区

(新潟県燕市(旧吉田町))

- 計画期間 平成17年度～平成21年度
- 面積 590ha
- 交付対象事業費 1,404百万円
- 市人口 80,091人(地区内人口 21,314人)

ポイント

- ・郷土の歴史的資源を活用した交流空間の整備
- ・自然環境を取り込んだ憩いの市街地空間の整備
- ・安全快適で魅力ある歩行者空間の整備 就業者世代と高齢者世代が調和し、住民全てが安心して暮らせるまちづくり

地区概要

吉田町都市計画マスタープランで定められたおのおののゾーンの有する都市機能や地域資源を活用して拠点的なまちづくりを進めなる。特に中心市街地に位置する『歴史とふるさとのシンボルゾーン』、これに隣接した『社会福祉・文化ゾーン』及び『世代交流ゾーン』、更には『粟生津地域』は関連事業とあわせて、吉田町全体の魅力アップを図る。

目標 地域資源を活用したまちなか交流・定住空間の再生

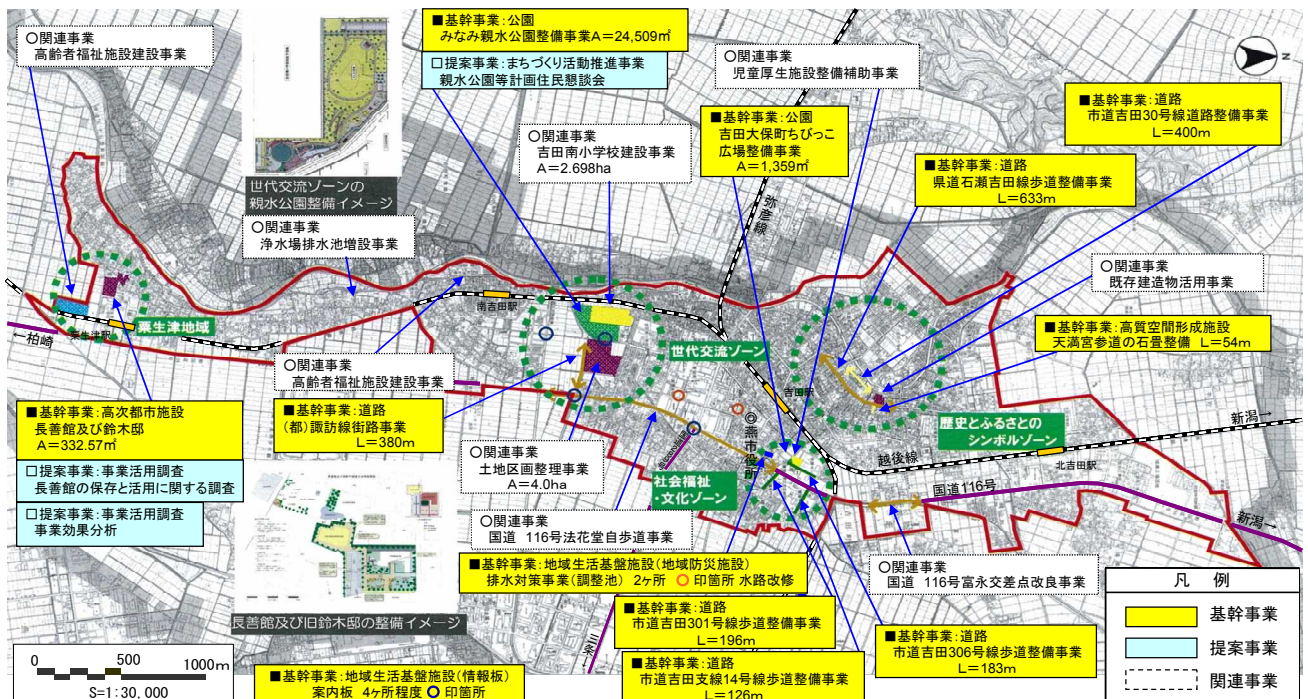
指標

地域資源を活用したまちなか交流環境の再生により、中心部を訪れる交流人口の減少の抑制を図り、更に居住環境整備を進めることにより夜間人口の減少の抑制を図る。また公園の整備により、近隣住民より利用が促進される効果を目指した。

| | | | | | |
|--------------|---------|-------|---|---------|-------|
| 観光入込客数の減少の抑制 | 73,000人 | (H16) | → | 26,250人 | (H21) |
| 定住人口の減少の抑制 | 25,477人 | (H16) | → | 25,050人 | (H21) |
| 公園利用者の増加 | 0人 | (H15) | → | 240人 | (H21) |

事業内容

- 基幹事業 (1,393百万円) → 道路(6カ所、延長1,918m)、公園(2カ所、25,868㎡)、地域生活基盤施設(情報版、4カ所)、排水対策事業(調整池、2カ所、水路40m)
- 提案事業 (11百万円) → 事業活用調査(長善館の保全と活用に関する調査、事業効果分析)、まちづくり活動推進事業(親水公園等計画住民懇談会)



地区の現況と課題

〔現況〕

計画地区は本町通りを中心とした市街地部である吉田地域とその隣接部の粟生津地域であり、吉田町の人口と各種施設が集積する居住と生活の場である。このうち中心市街地は西川の舟運により繁栄し、商業・業務などの機能が集積し、周辺住民の交流の場として栄えた結果、船着場、雁木、天満宮や香林堂(レンガ造の旧今井銀行)等の歴史的資源が多く、『街の顔』として重要な役割を担っている。また、周辺市街地では居住機能を中心として教育、福祉、保健機能等の町民の生活を支える機能が立地し、定住環境の整備が進められている。更に周辺市街地に連担する粟生津地域では長善館(儒教家鈴木文臺が創設した漢学塾)を地域資源とし、平成3年には吉田町史料館が開館し、長善館をしのぶ資料を中心に展示されている。

このように、計画地区には地域の魅力となりうる各種の資源が点在しているものの、それらが十分に活用されておらず、また安全で快適な生活を営む生活基盤(歩行者空間や公園等)の整備も遅れている状況にある。その結果、近年、市街地を中心に人口の停滞(DID 内人口は平成2年より減少)、少子高齢化の進展(平成12年：年少人口16.6%、老年人口17.8%)、中心商業活動の停滞(町民の中心市街地への買い物行動：61.0%(昭和55年)⇒9.9%(平成13年))、及び交通環境の悪化等が生じていることから、地域資源を活用した総合的な生活環境の整備が求められている。

〔課題〕

計画地区において顕在化している問題(人口停滞、少子高齢化、商業活動の停滞、交通環境の悪化等)を解決するためには、地域資源を活用した総合的な生活環境の改善が必要であり、その際、『地域魅力の活用』及び『定住・交流基盤の整備』が解決すべき課題となる。具体的には、

①地域の生活文化に密着した地域資源である西川の船着場、香林堂を再生した個性的なまちづくり

②町民の憩いの場であるとともに様々な交流活動となる都市公園の整備

(1人当り都市公園面積現況：吉田町5.8㎡、新潟県8.5㎡)

③安心して楽しく歩ける街なかの歩行者空間の整備(歩道や遊歩道がネットワークされていない)

等がまちづくり上の重要課題である。これらの重要課題を解決し、地域資源を活かした住む人と訪れる人に魅力あるまちづくりにより、安心して住み続けられ、更には楽しく訪れることのできる市街地環境の形成を目指す必要がある。

提案事業の特徴

新設公園等計画住民懇談会

少子高齢化の進行、余暇時間の増大、情報化の進展など、社会状況も著しく変化していくなかで、これまで、開発による樹林地や水辺の減少により、さまざまな生物の生息・生育環境が悪化し、生物多様性の低下の問題が生じてきている。こうした自然環境・社会情勢を背景に、人々の価値観は量から質へ、またライフスタイルは画一的なものから個性あるものへの追求と変化している。同時に公園緑地へのニーズも多様化している。これらをふまえ、人・水・緑の交流楽苑の公園整備を目指す。

計画策定プロセス

みなみ親水公園、地区中心部の環境整備等のワークショップ

各実施事業において、地域意見を反映した整備を実施するため住民懇談会を開催した。みなみ親水公園においては、平成17年度において、住民参加の手法としてのワークショップを2回開催し、地域住民の意見・要望について施設整備の技術的・経済的な検証、住民相互の公園利用に関する理解を図った。また、地区中心部の整備事業においても平成18年度にワークショップを開催し地域の意見を取り入れた事業計画を行った。



ワークショップの様子